

令和8年2月19日

世田谷区立烏山小学校
教職員の皆様

世田谷区立烏山小学校
学校関係者評価委員会

令和7年度学校関係者評価の報告

	総数	回収	回収率 (%)
児童 (5・6年)	198	180	90.9 (%)
保護者	610	547	89.6 (%)
地域	66	39	59 (%)

学校関係者評価委員会では、このアンケート及び教職員の自己評価の数値を分析し、行事や授業等の教育活動の観察を行いながら教職員と意見交換を進めてまいりました。

その結果を評価と提言としてまとめましたのでアンケートの考察と併せてご報告申し上げます。

なお、アンケートの結果のA「とても思う」とB「思う」の数値の合計を「肯定的評価」としています。

1. 主体的に探究する子どもの育成

「学習のめあてについて、主体的に探究する」

児童は、ほとんどの質問項目に高い肯定的回答をしている。このことから、先生方が楽しくよくわかる授業を目指して、児童の学習意欲を高め、主体的な学び、対話的な学び、深く考える学びが充実するよう授業研究を重ねられた成果が表れていることがうかがわれる。

一方、保護者にはほとんどの質問項目に否定的回答が一定数見られる。保護者の否定的回答の質問項目には、授業の進め方や授業中の児童の活動に関するものが多く、保護者には深く把握・認識しづらい面があると受け止められる。授業や児童の受け止め方の実相について保護者に十分伝えていく情報提供の工夫が求められる。

また、「授業で自分の考えを伝えることができている」では、児童の肯定的回答の割合が昨年度より大きく向上している。このことは、児童の努力とともに、先生方が児童の実態をより深く把握・理解され、指導方法を工夫された成果と捉えられる。

ただし、「学習したことを生活の中で活用している」では、児童・保護者ともに否定的回答が一定数ある。そのため、授業内容と児童の生活とを具体的に関連付けたり、生活の中で活用することの意義や視点等を明言したりして、指導されることが肝要と受け止める。

2. 多様性を認め合える子どもの育成

「自分のよさや可能性を信じ、互いに違いを認め合い、よりよい学級をつくろうとする」

児童の自己肯定感や友達を認めあう（尊重する）意識は高く、保護者の受け止めも同じ傾向であることから、良好な学級集団が形成されていると捉えられる。先生方の、人間尊重を基盤とした学級運営が、人権感覚・協調性・所属意識・連帯意識等に良い作用をしてこの結果がもたらされていることは喜ばしいことである。

ただし、10%程度の児童が否定的回答をしている点をなおざりにせず、まだ見えていない「多様性」が埋もれてしまわぬように、配慮を続けてほしい。

3. 心と体の健康な子どもの育成

「自分の心と体の健康を意識し、すすんで体を動かそうとする」

体を動かす楽しさは児童に広く浸透し、運動の習慣づくりの取り組みは成果を上げていると捉えられる。学校は外遊びの推奨・縄跳び週間・持久走など、体を動かすことを実践する機会を多く提供し、その取り組みによって結果が出ている証左である。

「わが子は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」設問の保護者回答で否定的回答が20%程度と高めに出ているのは、学校での活動と自宅での活動にギャップがあるからかもしれない。学校生活に多く取り入れられていることが理解浸透するよう、引き続き様々

な媒体をつうじて情報発信に努めていただきたい。

「うまくいかないことがあっても課題に取り組もうとしている」設問は、児童より保護者が10%程度高く否定的回答をしている。基準の置き方の違いと推察し、ただちに問題があるとは思えないが、児童や保護者とコミュニケーションにおいては、「ギャップが存在する」事実を押さえながら、目線が合うように努めていくことをお願いしたい。

4. 教育のプロとして教員の資質や組織力の向上を図る

「子どもの意欲を大切にしている」の設問は、教職員・児童・保護者共に肯定的回答が大半を占めており、強い信頼関係/相互理解が成り立っていると評価できる。

学校での過ごし方やルールを考える場面や理解浸透も同様の高い肯定的回答であり、児童の成長と、学校の安定的運営に寄与していることは想像に難くない。

さらに教員同士のコミュニケーションと新任教員へのフォローにより、充実した教育活動を進めていただきたい。

5. インクルーシブ教育を推進し、保護者・地域との連携を深める

情報発信や学校公開などを通じた開かれた学校づくりは一定の成果を上げており、保護者や地域からは概ね評価されている。今後、学校から発信している情報や提供している場へ保護者がどの程度アクセスしているか、可能であれば検証を試みてほしい。

一方で、「相談しやすさ」に不安を感じる保護者が一定数存在する。保護者会のあり方や内容の工夫により、教職員と保護者間、また保護者同士の情報交換の場を提供できたら良いのではないか。また、課題をかかえる児童についても相談しやすい環境整備に引き続き取り組んでいただきたい。

6. 「キャリア・未来デザイン教育」の実現

「学校生活は、楽しい」の設問では、児童、保護者、教職員とも肯定的回答が高い。先生方の日頃の教育活動が充実していると考えられる。

「なりたい自分や将来やりたいことについて考える学習をしている」の設問では27.8%の児童が否定的回答をしている。

授業では、様々なきっかけづくりがなされているようだが、なりたい自分や将来のことについてもう少し具体的に、かつわかりやすい授業が求められる。

保護者においても同様な設問に否定的回答をしている方が多い。保護者にむけて「キャリア、未来デザイン教育」のあり方を知らせることで否定的回答が減らせるのではないか。

「学び舎」について、上祖師谷中学校の生徒が様々な場面でのボランティア活動をおし

て小学校の活動に関わっており、また、幼稚園や保育園とも交流を深めるなど、複数世代と共に活動している。これらを学校だよりやホームページなどで知らせており周知されつつあるが、「情報が提供されている」の設問に対して 25.6%が認識をしておらず、地域の認知度が上がらない。

発信されている情報に、能動的にアクセスをしに行くこと求めることは難しく、ホームページや学校だよりで学び舎について引き続き情報提供することに加えて、学校だより等の紙面に QR コードを配置するなどして、情報へのアクセスを容易にできるよう、工夫をしていただきたい。

7. 学校生活全般

児童の「学校行事で、達成感を感じている」の肯定的回答は 93.9%と高い。これは先生方が一人ひとりの児童に寄り添いながら指導を継続してこられた成果であり、児童が学校行事に対して高い満足感を得ている様子がうかがえる。

一方、交通ルールの順守やあいさつの励行については、地域から否定的回答も出ている。交通ルールの順守は普遍的なものであり論を待たないが、あいさつの励行については近年の環境変化により難しい場面も発生していると思料する。環境変化も踏まえ、地域・家庭・学校でより一層連携した指導が継続されることを望む。

また「本を読むことが好きである」の項目については、デジタル化が進む昨今、家庭と学校が連携し、児童が本に親しむ環境づくりの推進、読書習慣の定着が進むことを期待する。